

巻・頭・言

観光とインフラ

今年7月末に寒地土木研究所の技術者交流フォーラム事業 in 函館にて、パネラーの一人として講演させて頂きました。そのフォーラムにも北海道本部から多くの方が参加して頂き盛況に終了し、有難うございました。今回のフォーラムのテーマは「観光とインフラ」でした。函館も大型客船の寄港が増え、インバウンド観光客が大きく増加しているのを肌で感じるようになってきました。第9期北海道総合開発計画においては、主要施策として北海道のポテンシャルを活かした「食料安全保障」「観光立国」「カーボンニュートラル」の3つが挙げられています。北海道ならではの価値を最大限に活用し地方を発展させることが求められていると思います。

特に函館は人口減少率が非常に高く、年間3000人以上の人口が減り続けており、地方の衰退を体現しています。このまま手を打たないと将来的には消滅都市になる可能性が高いと言われています。定住人口から交流人口の増加に切り替えるのが「観光」の一つの役割であり、交流人口が増えれば地方経済の活性化も果たせるとのロジックで観光立国を進めています。ただ現在でも定番観光地である函館山夜景はオーバーツーリズムの状態を呈しており、期待していた観光客が十分に満足できない状況も見受けられます。

函館を始め北海道は、入込客数を増やすための視点でのインフラ整備に力を入れて来たかと思えます。空港の拡張、新幹線整備、大型客船停泊埠頭建設、そしてそれらを結ぶ高規格道路整備などが重点施策として取り組まれて来たかと思えます。オーバーツーリズムの時代に入り、質や滞在時間を本気

布村 重樹(ぬのむら しげき)

技術士(建設/上下水道/森林/総合技術監理部門)

公益社団法人 日本技術士会
北海道本部 副本部長
道南技術士委員会 代表



で増やす取組みが求められていると感じます。

欧米ではアドベンチャートラベルとの新しい観光の在り方が提唱されており、富裕層を中心に長期滞在型の体験観光が我国でも注目され出しています。アクティビティを通じて地域の自然・文化を体験することにより、未体験の多様な価値感到触れ、旅行者自身の内面に変化がもたらされる様な長期滞在型の旅行スタイルだそうです。アクティビティと言っても冒険的なものだけでなく文化体験的なソフトなものも多く、北海道にある豊富な自然と文化を組合せたアクティビティは工夫次第だと思います。

私もインフラ整備技術者としてアクティビティ作りに励んで来ました。函館は我国の近代コンクリート文化発祥の地だとコンクリート遺産を解説しながら巡るツアーを企画して来ました。今年は開発局と協力してインフラを見学するツアーも企画しました。インフラの役割と重要性を一般の方に少しは伝わったかなと考えています。観光を通じて技術的なこだわりや工夫・苦労など皆さんに伝われば良いと思います行動しています。

ツアーに参加すると地域内を安全に快適に移動するための景観に配慮したインフラの充実も求められていると感じます。移動中も満足度を向上させる重要な時間です。シーニックバイウェイにいち早く取り組んだ北海道だからこそ、その考え方を活かし、より発展させるインフラ整備や改良を行えると思います。地域の地勢と自然・歴史・文化を理解し、「観光とインフラ」を通じて地方経済が活性化し、発展することを祈り、これからも応援し・行動して行きたいと思っています。